

## 1 第21回参議院議員通常選挙

第21回参議院議員通常選挙は、平成19年（2007年）7月12日に公示され、改選議員の任期満了（同月28日）翌日の同月29日に執行された。

今回の通常選挙は、平成18年に成立した定数較差是正のための公職選挙法一部改正（群馬及び栃木選挙区の定数は各2減員、東京及び千葉選挙区の定数は各2増員の定数較差是正）に伴い、群馬及び栃木選挙区の改選数が1減、東京及び千葉選挙区の改選数が1増で行われた。

比例区と選挙区を合わせた改選数121に対し377名が立候補し、年金記録問題、「政治とカネ」、格差問題等が大きな争点となった。

7月29日投開票の結果、自民党は大きく議席を減らす一方、民主党が大きく議席を増やして参議院における比較第一党となった。

今回の通常選挙は12年ぶりに統一地方選挙と同じ年に行われたが、投票率（全国平均）は、比例区58.63%、選挙区58.64%となり、前回の通常選挙より2%余り上回った。今回の通常選挙から、比例代表選挙だけでなく選挙区選挙でも在外投票ができるようになった。また、総有権者の1割超に当たる約1,080万人が期日前投票制度を利用し、過去最高となった。

各党の獲得議席数は以下のとおりである。

政党名	獲得議席	改選前議席	増減
民主党	60	32	+28
自由民主党	37	64	-27
公明党	9	12	-3
日本共産党	3	5	-2
社会民主党	2	3	-1
国民新党	2	2	±0
新党日本	1	0	+1
無所属	7	1	+6
欠員	—	2	-2
改選数計	121	121	

※改選前議席数は、第166回国国会会期終了日現在の政党所属議員数（正副議長は離脱前の所属政党で計算）であり、参議院における会派所属議員数とは一致しない。